

事業所名

放課後等デイサービス ひなたぼっこ

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		法人理念【ひとりひとりが主人公】 事業所理念【社会へ出るために今できること】							
支援方針		子ども社会や子ども同士の関りを大切にしております。可能な範囲で職員の介入は少なくし、子ども同士で解決できるように支援しております。子ども社会で身に着けた社会性や生活スキルを、成長した将来に繋げていけたら理想です。ご家族と協力しながら、お子さんの成長を一緒に見守ってきたいと考えております。							
サービス提供時間		放課後時	14 時	00 分から	17 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		休校時	9 時	00 分から	16 時	00 分まで			
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	毎回利用時に、検温を行い体調管理に対しての意識付けを行っている。そのときに、支援者から声掛けを行いそれぞれの心理的状态（気分や機嫌）を把握する。10:00（お茶）、12:00（昼食）、15:00（おやつ）を設けており、一日の生活リズムの構築を行っている。衣食については、基本的に自分で行ってもらい、難しそう、苦手そうな所見があれば、どのような配慮をどの程度したらよいかを検討させていただいている。							
	運動・感覚	室内では、マットレスやバランスボールで姿勢の保持や体幹の強化など、身体機能の強化を目的とした活動を遊びの中に取り入れている。プットインやボタンを付ける活動（課題）など、微細運動を目的とした活動もお子さんの様子を見ながら提供している。屋外では、グラウンドを所有しており、全身を大きく使った運動（野球、サッカー、バスケ、おにごっこ、かくれんぼ、土手のぼり等…）を行い、基礎体力の向上を目的として活動している。							
	認知・行動	“自ら感じ、行動してもらおう” 為に、職員から過剰に声掛けや誘導はしていない。子ども達それぞれで時間を意識できるようになったり、周囲の様子を感じ取れるようになることを目指している。その中で、難しい所や苦手な部分をご家族と一緒に検討していきたいと考えている。自発的に行動できる場所は強化していき強みとして伸ばしていきたいと考えて支援している。定期的な学校訪問を実施し、学校での生活の様子を先生方から聞き取りを行い、事業所での支援に繋げている。							
	言語 コミュニケーション	“子ども同士” のコミュニケーションを大切にしている。また、成人の事業所との交流を通し、“大人とのコミュニケーション” も体験してもらおう。その中で自己紹介が出来るようになってほしいと考えており、なるべく多くそのような機会を設けている。発語が難しく、言語でのコミュニケーションが難しいお子さんには、その子に応じたコミュニケーションを受け入れながら、コミュニケーションツールを広げていけるように支援していく。							
	人間関係 社会性	“個人” よりも“集団” を意識しており、まずは、だれか一人が何かを始めたら、そこに他の人も一緒になって活動できるように働きかける。“自ら他者へ声を掛けられる” 所を目指す。また、その時の相手の反応や様子にまで思いを馳せられるように声掛けをしている。“ルールを理解し守る” 事が出来るように、デジタル機器類も必要に応じながらルールを設けて導入している。地域のイベントへの参加や、地域清掃などを行い、“地域社会” を身近に感じてもらえるようにしている。							
家族支援		事業所でのお子さんの様子を共有させていただき会議を2か月に1回程度、ご家族の要望に応じて開催している。その際、ご家庭での様子で困る事や悩みなどを共有させていただいている。			移行支援		ライフステージが切り替わるタイミングの前に、どんな生活や資源があるのかをご家族と相談している。“生まれ育った地元” を大切にできるように支援している。		
地域支援・地域連携		“生まれ育った地元” での受け入れが可能となるような枠組みが整えられるように、関係機関との情報共有や連携を深めている。定期的な学校訪問を実施し、地域や学校の先生方との連携も大切にしている。			職員の質の向上		自立支援協議会（こども部会）への参加。報告 子ども達の支援に繋がるような外部研修には積極的に参加。 職員間での意見交換を頻繁に行っている。（平日の午前中の時間）		
主な行事等		夏祭り、法人のお祭り（ひだまり祭）、季節を感じられる活動を随時行っている。（花見、プール、川遊び、焼き芋、クリスマス、大掃除、ひな祭りなど）							